パネラー　井村弘子氏

「残土・産廃問題ネットワーク・ちば」

1971　「房総の自然を守る会」（代表：石川敏雄）（千葉県自然保護連合の母体）

1988.4　ゴルフ場が県内に，特に市原では２ｋｍ歩くとゴルフ場という状態。ゴルフ場問題連絡会を作る

1990.6　県は無農薬ゴルフ場を目指し芝の研究を始める。1994 年頃よりバブル崩壊ゴルフ場は 124，無農薬 32（現在 51）でストップし，以後途中放棄のものが目立ちそこに残土が積まれるようになる

1997・11　残土・問題ネットワーク・ちばを藤原寿和を代表にして立ち上げる

1998・5　残土・産廃と改正、残土が産廃と切り離せない実情を訴える

館山市出野尾では山を二つも三つも削り残土が町に高く，銚子では不法投棄のダンプが深夜大通りに連なるようになる

市原では水道取水場のまわりに大きな不法投棄、〇〇組などが暗躍する

2000 年頃グリーンキャップが各所に出来，いくらか市民．町民も安堵。

この間に残土ネットは，　残土白書「残土が房総の風土を壊す」また「千葉県残土マップ」を刊行、市民集会を持ち市民の啓蒙に努める。

神奈川県から入る残土の量と千葉県の受ける量を調査し、他県のゴミを入れるなど署名運動をする

2005 年「千葉県不法投棄マップ」を刊行、4 月朝日環境賞受賞

略歴　１９２０年生　父親が詩人で風来坊でしたので、小学校を６回変わりました。結婚するまでの転居暦２３回、以後安住。一男一女、孫３人。主人健在。女学校を出てから、出版関係の仕事に従事、戦中紙が統制でなくなり、呼ばれるままに、大学の先生の脇で計算機を回しておりました。その後、数学の教師を女子高で３０年。この運動を始めたきっかけは小学生の息子が『大人は僕達の遊び場をみんな取ってしまうのだね』といったときから、そして有吉佐和子の「複合汚染」を読んだときからです。

私の願い　　皆で千葉県をよくしていきたい。どうしてこんなに不法投棄が多いのだろう。どうして住民が反対しても産廃場ができるのだろう。

港から入ってくる他県のゴミが多すぎる。その結果千葉県の不法投棄の量は日本一では間尺に合わない。また立派な道路を作ればその分だけ千葉県にゴミが入ってくることになる。開発も結構だがやたらにゴミが出てくるような開発はもう止めた方がよいのではないだろうか。自分のことだけを考えて他を省みないような生き方を大人がするものではない。毎日考えられないような事件が紙上をにぎわわせている。私たちはよい背中を作らなくてはいけない。安心して住める世の中作りを千葉県からやっていきたい。こんなに不法投棄の山ができているが、ほったらかしているうちに草がぼうぼう生え一見よいようにみえるが、地下水をどんどん汚していく。また別の所にあたらしい小山ができている。変化はないから大丈夫などと、簡単にはいえないものがたくさんある。みんなで知恵を出し合おう。ダイオキシン問題、アスベスト問題、30 年 40 年先のことを、自分の代はこれで終わりなどといっている場合ではない。官民一緒になって、垣をはずして千葉を変えることをしていきたい。